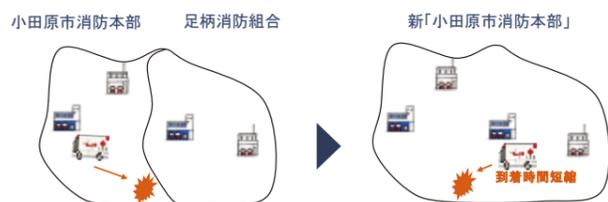


広域化により出動効率がアップ！

旧管轄の境界がなくなり、署所の統廃合が進められたことで、管内全体で見たときの災害のカバー率が向上しました。現場の近くの署所から部隊が出動でき、到着時間の短縮につながっています。また、車両や人員が増え出動できる部隊数も増えたことで、災害の初期段階で対応できる車両や人員数も多くなりました。

1分1秒を争う災害の場では重要なことです。

開成町の場合、松田町の松田分署や南足柄市の足柄消防署及び岡本出張所から出動することが多いのですが、近くの署所で対応できない場合は、栢山出張所等からも出動できるようにバックアップ体制を強化しています。

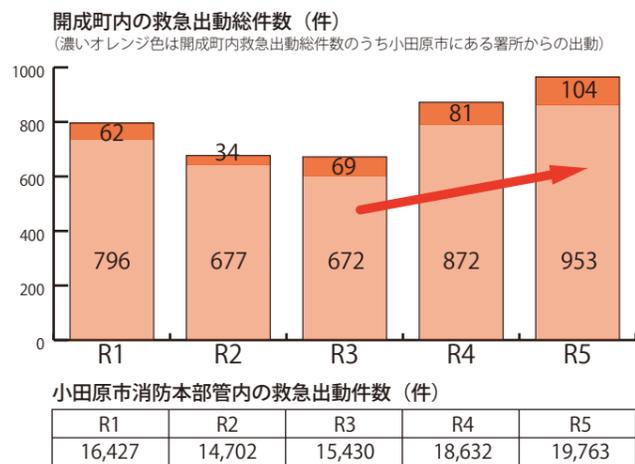


小田原市消防本部
さとう ゆうすけ 佐藤 佑輔 さん

救急件数増加への対応を強化！

令和5年の救急件数は19,763件で、令和4年から約**1,000件も増加**しています。今後も高齢化等により、出動件数が増加することが予想されます。

広域化されて部隊数が増えた小田原市消防本部の管内でも、通常編成の救急隊11隊が全て出動してしまう状況が実際に発生しています。そこで、救急通報の多い日中に活動する「日勤部隊」を増設し、救急に充てられる人員を増やして対応しています。



119番「映像通報機能」の運用を始めました！

映像通報機能は、119番を通報した人がスマートフォンのカメラ機能で、災害現場等の映像を消防指令センターに送ることができるシステムです。消防指令センターが「映像通報機能が必要」と判断した場合に使用します。

消防指令センターが現場の様子をリアルタイムで確認できるほか、通報者が必要に応じて応急手当のアドバイスを受けることができます。

※通信料は通報者の負担となります。



詳しくはこちら▶

119番通報の流れ

落ち着いて、詳しく様子を伝えましょう

- 1 火事か救急かを伝える
- 2 場所や近くにあるものを伝える
- 3 現場の状況や傷病者の様子を伝える
- 4 消防指令センターが映像通報機能を使用する必要があると判断し、通報者が機能の使用を承諾すると、通報者のショートメッセージ(SMS)にURLが送付される
- 5 消防指令センターの説明に従い対応する

災害への対応を強化！

広域化により管轄地域の人口規模が大きくなったことで、大規模災害での活躍が期待される「高度救助隊」を配備できるようになりました。高度救助隊は、より高度な装備と、人命救助について専門的で高度な教育を受けた隊員により構成される**全国的にも設置数が少ない部隊**です。

また、山岳救助や水難救助等、より専門性に特化した救助隊の設置や、高性能の車両・機材を導入できるようになりました。令和3年熱海市伊豆山土砂災害の際は、高度救助隊が現地で活動し、他の救助隊が管轄内をカバーしていました。



広域化によりコスト削減！



旧足柄消防組合と旧小田原市消防本部で、それぞれで管理されていた車両等の設備や消防指令センターが一元化されました。人員や車両等の「消防力」をパワーアップさせるとともに、署所の統廃合や地域の特性に合わせた車両等の設備の見直しで、**コスト削減**にもつながっています。

女性職員の割合が増加！

小田原市消防本部の女性職員数の割合は、県内でもトップクラス。現在19名の女性職員が活躍しています。

人員数の増加により多様な働き方が可能となったことや、署所の改修による働く環境の機能が向上したことで、女性職員も働きやすくなりました。

今年3月に建替えられ開所を迎えた「山北出張所」にも、女性職員が当直できる環境が整備されています。



平成25年3月に旧足柄消防組合(南足柄市、開成町、中井町、大井町、松田町、山北町を管轄)と旧小田原市消防本部が統合し、県西地域2市5町(小田原市、南足柄市、開成町、中井町、大井町、松田町、山北町)の消防機能が広域化されてから10年が経ちました。



小田原市消防本部広域化10周年

開成町は、小田原市消防本部管轄エリアのほぼ中央に位置しています。開成町をぐるっと囲むようにいくつもの署所があり、様々な署所から現場に出動できるようになりました。小田原市消防本部では、開成町をはじめとする県西地域の皆さんの命を守るため、日々努力しています。これからも、皆さんが安心して生活できる地域にするために、**救急車や消防車等の適正な利用をお願いいたします。**



小田原市消防本部
はしもと まさひろ 橋本 正則 さん